PTA 引っ越し大作戦 無事終了

中学校の新築移転に伴い、八月二十二日及び二十三日の両日、小湊ＰＴＡ会長、小林校長先生らを先頭に、生徒、父母ら多数の方々の協力を得て、大がかりな用具の移動を行いました。

名づけて、「引っ越し大作戦」！

当日は、残暑きびしく、日中、三十二・三度まで気温は上がり、タオルを肩に、汗を拭きながらの作業。

あらかじめ、旧校舎、新校舎にわかれ、用意されたダンボール箱等に用具を入れ、それぞれに、○階○○教室と表示し、手ぎわよく体育館に集められ、用意されたトラックに積みこまれました。

トラックは急ぎ新校舎へ。

新校舎では、届いた荷物をすばやく分別し、それぞれ指定された教室へ運びこみました。中には、新校舎への気づかいか、壁などにぶつけないよう慎重に運ぶ人、又、広い校舎のため、荷物の行き先にとまどう人など、慌ただしい引っ越しの中にも楽しさがあったようです。

以上、二日間にわたる引っ越し大作戦も事故もなく、無事終了しました。

ご協力をいただいたみなさん、大変ありがとうございました。

二学期は新校舎で

昨年七月に着工した学校建設（校舎棟）がこのほど完成し、二学期から新校舎で、授業ができるようになりました。

自然採光を存分に取り入れ、生徒の個性を生かし、教育の多様化に対応できるりっぱな校舎になっております。

一階、正面には、大きな生徒玄関がかまえてあり、保健室、金工、木工室、理科室、被服室、調理室等の実習室がならんでおります。

また、現在建設中の食堂棟も、一階のつながりになるとのことです。

▲木を使った床・壁（１階実習室前）

二階には、職員室をはじめ会議室、スタジオ放送室、一、二年生の学ぶ普通教室の外、多目的スペースがならんでおります。

三階には、三年生の学ぶ普通教室の外、美術室、図書室、コンピューター室、音楽室がならんでおります。

校舎の中は明るく、ゆったりとし、壁、床、各教室の戸など木を多く使用してあり、鉄筋コンクリート造りとは思えぬほど、暖かさ、やわらかさを感じます。

また、二階、三階に設けられた円弧状の談話コーナーには、長いすをならべたように腰をかけられるようになっており、生徒同士あるいは、先生と生徒といったように、気づかいなく話しができるようなスペースになっております。

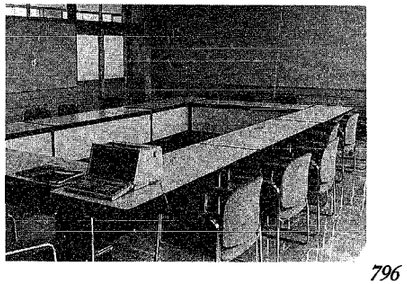
尚、今回新たに設けられた多目的スペース、コンピューター室には、生涯学習体系への移行及び複雑化する情報処理など、二十一世紀に向けた学習環境を整備充実するために設置されております。

以上、今回完成した校舎棟を簡単に紹介しました。

今後、平成四年、五年度に屋内体育館及び屋外運動場が整備され、中学校建設がすべて完成することになります。

▼談話コーナーで話す先生と生徒

▼一新した会議室

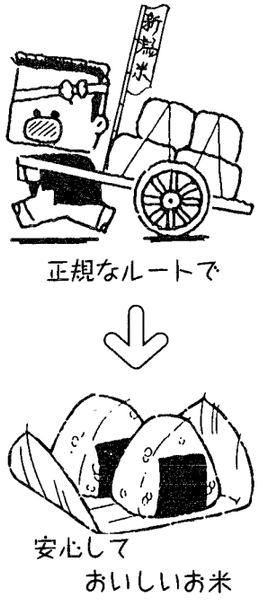


『米（こめ）』は 適正流通 全量出荷 しましょう

日本人の主食である米は、消費者への安定供給を図るため、食糧管理法により政府が責任をもって管理しています。

そのため、生産者の自家消費や、親類、知人等に無償で贈るもの以外のお米は、食糧管理制度の下で、定められたルートで流通される仕組みになっています。また、生産者が政府米、自主流通米等の形で、お米を売り渡す場合は、全て検査を受けることになっています。最近、自由米と称して未検査米が不正規流通米として一部に出回っていますが農産物検査官の検査を受けていないお米は、その銘柄や等級などの品質について何の保証もありません。流通する全てのお米が検査を受け、検査証明により、その品質を保証されることによって、生産から消費まで、全ての段階で安心して取引を行うことができます。

不正規流通米（ヤミ米）は、売らない、買わないよう、みなさんのご協力をお願いします。



「台風」

この時期に多いやっかいな訪問者

南洋や南シナ海などに発生し、日本、フィリピン、中国などにくる猛烈な暴風雨を称して台風といわれております。

台風には、温帯地方に発生し、東に移動していく、温帯低気圧と、熱帯地方に発生し初め西に移動し、高緯度にいくと転向して東に進む、熱帯低気圧に大別されています。

また、メキシコ湾、カリブ海に発生するものは、ハリケーン、インドのベンガル湾に発生するものはサイクロン、オーストラリア北側の周辺海域に発生するものは、ウィリー・ウィリーと呼ばれています。

台風は年平均二十八個くらい発生し、日本にくるものは年平均四個くらいで、八月、九月に最も多く、立春から二百十日目にあたる、九月一日あるいは二日によく台風がくるといわれております。

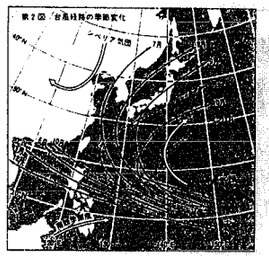
また、日本においてはその頃が稲の開花期にあたるとともに、秋の収穫の時期にあり、被害が多かったことから、暦にも（二百十日）としてしめされております。

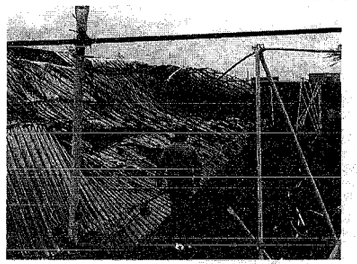
台風は大気の不安定性のために発生し、大気中の水蒸気の潜熱が大きな作用をしていると考えられています。

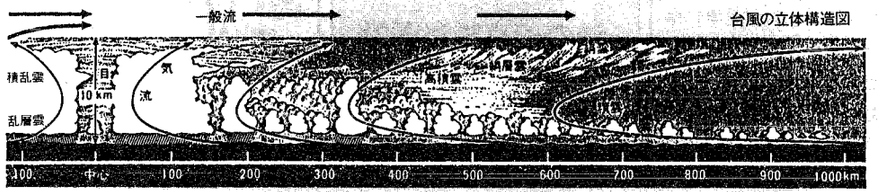
また台風は渦巻というひじょうに特徴ある構造をしており、風速の分布は茶わんの中のお湯をかきまわしたときにできる渦と似ており、中心に近いほど強く、本当の中心は「台風の目」といわれ、無風の状態になっており、雨も同じ形態になっております。

このように台風は、いろいろな構造、性質をもち、行く各地で発達し、あるいは衰弱し、大きな被害を受けたり、恵みの雨をもたらしたりしています。

いずれにしても、私達にとって台風はとても恐ろしいものです。台風が接近した場合気象情報等、十分注意することが必要です。





▲昨年の台風19号による被害

台風の立体構造図